

## 研究・調査報告書

分類番号			報告書番号	担当
A-110	A-11C	A-770	17-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>				
Relationship of Alcohol Consumption to All-Cause, Cardiovascular, and Cancer-Related Mortality in U.S. Adults. アメリカ成人における飲酒量と全死亡、循環器死亡、がん死亡との関連				
<b>執筆者</b>				
Xi B, Veeranki SP, Zhao M, Ma C, Yan Y, Mi J.				
<b>掲載誌</b>				
J Am Coll Cardiol. 2017 Aug 22;70(8):913-922. doi: 10.1016/j.jacc.2017.06.054.				
<b>キーワード</b>				<b>PMID</b>
飲酒、全死亡、循環器死亡、がん死亡、アメリカ成人				28818200
<b>要 旨</b>				
<b>目的：</b> 飲酒量と全死亡、がん及び循環器疾患 (CVD) 死亡との関連を調査した。				
<b>方法：</b> The National Health Interview Surveys (NHIS) (1997-2009 年) と the National Death Index records (2011 年 12 月 31 日まで) の突合データを用いた。18 歳以上の NHIS 参加者 333,247 人を対象とした (データ欠損者、妊婦を除外)。自己申告の飲酒量により対象者を 6 グループに分類し (①生涯非飲酒: 生涯飲酒<12 drinks [1 drink = 14g 純アルコール]、②機会飲酒: 生涯飲酒≥12 drinks と過去数年間飲酒<12 drinks、③過去飲酒: 過去 1 年間飲酒≥12 drinks、④軽度飲酒: 現在飲酒≤3 drinks/週、⑤中等度飲酒: 現在飲酒>3 drinks と ≤14 drinks/週 [男性]、飲酒>3 drinks と ≤7 drinks/週 [女性]、⑥多量飲酒: 現在飲酒>14 drinks/週 [男性]、飲酒>7 drinks/週 [女性])、過去 1 年間の過激飲酒 (5drinks 以上の飲酒/1 回) 状況を評価した。アウトカムは全死亡、がん及び CVD 死亡とした。多変量 Cox 比例ハザード回帰モデルにより飲酒量と死亡率の関連を検討し、共変量は性、年齢、人種、民族性、教育、婚姻、BMI、身体活動、喫煙、既往歴とした。				
<b>結果：</b> 中央値 8.2 年 (270 万人年) の追跡後、死亡者は 34,754 人であった。生涯非飲酒と比較し、軽度、中等度飲酒は全死亡 (HR: 0.79; 95% CI: 0.76-0.82、HR: 0.78; 95% CI: 0.74-0.82)、CVD 死亡 (HR: 0.74; 95% CI: 0.69-0.80、HR: 0.71; 95%CI: 0.64-0.78) のリスクが低下し、多少飲酒は全死亡 (HR: 1.11; 95% CI: 1.04-1.19)、がん死亡 (HR: 1.27; 95% CI:1.13-1.42) のリスクが増加した。過激飲酒頻度≥1 日/週は全死亡 (HR: 1.13; 95% CI: 1.04-1.23)、がん死亡 (HR: 1.22; 95% CI: 1.05-1.41) のリスク増加と関連を認めた。				
<b>結論：</b> アメリカ成人では、軽度、中等度飲酒は全死亡及び CVD 死亡に対する保護効果を有し、多量飲酒と過激飲酒は全死亡及びがん死亡のリスク増加に関連していた。				